

千葉県千葉地区，五井市原地区，五井姉崎地区， 房総臨海地区工業用水道事業の紹介

○事業の趣旨

当該四地区における工業用水道は，主に京葉臨海工業地帯のうち千葉市以南袖ヶ浦市までの海面埋立地に進出した企業に工業用水を供給している。

この他，地下水から表流水への転換や内陸工業の振興を図るため茂原市及び佐倉市の一部にも供給している。

○事業の経緯

昭和30年代に京葉工業地帯埋立が行なわれ，そこに進出する企業に対し工業用水を供給する目的で工業用水道が整備され，昭和39年に五井市原地区（計画給水量120,000m³/日），昭和42年に五井姉崎地区（同401,760m³/日），昭和46年に千葉地区（同125,000m³/日）が給水開始された。

更には，今後立地予定の企業や，立地済企業の需要量調査を基に昭和45年に上記3地区の給水区域に袖ヶ浦市を加えた房総臨海地区の事業に着手した。

房総臨海地区の給水は，昭和61年度に一部給水（140,000m³/日）を実施しており，その後，地下水転換として千葉中央港Ⅰ期・Ⅱ期地区及び茂原地区を編入し，現在の給水能力は172,800m³/日である。

○工業用水道施設の概要

五井市原地区工業用水道は，県内の養老川を水源とし，ポンプで山倉ダムに揚水して水量調整のうえ，受水企業へ供給している。

千葉地区工業用水道は，利根川水系利根川河口堰，湯西川ダム，八ツ場ダムを水源として，印旛沼から取水しており，印旛沼浄水場で浄化した後受水企業へと供給している。

五井姉崎地区工業用水道は，計画給水量401,760m³/日と県内工業用水で最も大きな規模であり，建設工事は前期・後期に分けて施工した。

後期工事のうち配水施設は千葉地区工業用水道と共同で実施した。水源は，印旛沼開発事業により新たに生み出された5m³/秒を当てている。

また，昭和58年度からは，佐倉市の一部を給水区域に加え，房総臨海地区工業用水道と共同で配水施設の建設を行い，昭和62年度に完成した。

房総臨海地区工業用水道は，利根川水系川治ダム及び霞ヶ浦開発事業を水源として，房総導水路の一環として建設された長柄ダムで取水し，袖ヶ浦浄水場及び同皿木分場を経て，工業用水を受水企業へ供給している。

○需要者の概要（4地区合計）

（平成18年9月1日現在）

業種	給水件数	契約水量（m ³ /日）
食料品製造	17	31,810
飲料・飼料	1	1,500
化学工業	49	417,655
石油・石炭	9	173,201
鉄鋼業	4	32,965
電気・ガス	11	42,960
非製造業	15	2,864
非鉄金属	6	16,610
金属製品	8	8,800
電気機械	7	20,024
プラスチック製品	4	13,780
窯業・土石	11	13,538
一般機械	1	850
輸送用機械	1	1,600
計	144	778,157

○給水系統を含む給水区域図



○売水可能水量

房総臨海地区 31,993m³/日

○事業の特徴、アピール等

これらの地区は、千葉県の京葉工業地帯埋立計画に合わせて建設が進められた基盤整備事業であり、需要の大半は石油化学工業である。

四地区は管網化されており、止水を伴う工事等の場合にも、振替給水ができるなど、給水面での安定性が高い地区である。

○千葉県企業庁工業用水部のホームページアドレス

http://www.pref.chiba.jp/kigyou/d_kanri/kousui/index.html